

ごみの減量・資源化に関する市民アンケート

市民のみなさまには、平素から越谷市の廃棄物行政にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

本市では、ごみ（一般廃棄物）についての基本的な事項及び施策を定める「越谷市一般廃棄物処理基本計画」の新たな策定に向けて作業を進めています。

また、国が定めた第4次循環型社会形成推進基本計画では、2025年度の目標として1人1日当たりの家庭系ごみ排出量が440g/人・日となっています。本市の1人1日当たりの家庭系ごみ排出量は528g/人・日（2017年度実績）となっており、目標との差は約80g/人・日となります。今後、目標を達成するために市として何らかの対策を考えなければなりません。特にごみの減量・資源化に向けては、市民・事業者・行政の協力・連携が不可欠であり、これまで以上に施策・取り組みを進めていく必要があります。

本アンケート調査は、市民のみなさまの貴重なご意見をお聞きし、実効性の高い計画を策定するための基礎資料としたいと考えております。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

令和2年（2020年）3月
越 谷 市

【ご記入にあたって】

1. このアンケートは18歳以上の越谷市在住の方から無作為で抽出した1,500人の皆さまにお願いしています。
2. このアンケートは、あなたが行っているごみ・資源の出し方や分別についてお答えください。
3. 回答の内容は、全て統計的に処理しますので、プライバシーの保護はもとより、他の目的に利用することは一切ありません。
4. 調査票をご記入のうえ、3月〇日（〇）までに、同封の返信用封筒に入れてご投函ください。（切手は不要です）
5. アンケートについてのお問い合わせは、下記までお願いします。

問い合わせ先：越谷市役所 環境経済部 リサイクルプラザ
電話：048-976-5371
FAX：048-976-5372

あなた自身のことについて

問1 あなたの性別をお答えください。(○は一つ)

1 男性	2 女性	3 無回答
------	------	-------

問2 あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(○は一つ)

1 18～19歳	2 20～29歳	3 30～39歳	4 40～49歳
5 50～59歳	6 60～69歳	7 70～79歳	8 80歳以上

問3 あなたを含め同居するご家族の人数は何人ですか(○は一つ)

1 1人	2 2人	3 3人
4 4人	5 5人	6 6人以上

問4 あなたのお住まいは次のどれに当たりますか(○は一つ)

1 戸建て住宅
2 敷地内にごみ集積所がある集合住宅(マンション・アパート等)
3 敷地内にごみ集積所がない集合住宅(マンション・アパート等)
4 事業所・店舗等と併設の住宅(戸建て)
5 事業所・店舗等と併設の住宅(集合住宅)
6 その他(具体的に: _____)

問5 あなたは、越谷市にお住まいになって何年になりますか(○は一つ)

1 3年未満	2 3年以上～5年未満	3 5年以上～10年未満
4 10年以上～20年未満	5 20年以上	

問6 あなたは、どの地区に住んでいますか。(○は一つ)

1 桜井地区	2 新方地区	3 増林地区
4 大袋地区	5 荻島地区	6 出羽地区
7 蒲生地区	8 川柳地区	9 大相模地区
10 大沢地区	11 北越谷地区	12 越ヶ谷地区
13 南越谷地区		

家庭から出るごみ・資源物について

問7 家庭から出るごみの減量化や資源化の分別等についてどの程度関心がありますか。(○は一つ)

1 とても関心がある	2 やや関心がある
3 あまり関心がない	4 全く関心がない
5 どちらともいえない (わからない)	

問8 問7で「3. あまり関心がない」「4. 関心がない」とお答えした方にお聞きします。関心がないと答えたのはなぜですか。(○はいくつでも)

1 ごみを減らす努力・工夫や資源化に協力するのが面倒だから
2 ごみは燃やせばいいと思うから
3 ごみの減量や資源化を行う必要性がわからないから
4 必要のない物 (=ごみ) だけをすてているから
5 自分ひとりが努力しても影響がないと思うから
6 ごみの減量や資源化は行政や企業が取り組むことだと思うから
7 その他 (具体的に :)

問9 ごみの減量や資源化について、あなたが重要だと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

1 現在ごみとして集めている品目を、新たに資源として回収する
2 資源の分別をさらに徹底し、資源回収量を増やす
3 マイバッグの利用や、無駄なものは買わないことなどによるごみの発生抑制
4 生ごみの水切りや、食べ残しをしないことなどによるごみの減量
5 まだ使えるものは繰り返し使う、壊れたものを直して使うなどの再使用
6 ごみの減量や資源化に関する情報提供を充実させる
7 ごみ処理や資源化に掛かる費用の周知
8 学校での環境教育を推進する
9 特にない
10 その他 (具体的に :)

問 10 ごみの減量や資源化に関して市の取り組みについての要望や知りたい情報は何か。
(○はいくつでも)

1	ごみの出し方や分別方法
2	資源の持ち去りの対策
3	資源物（資源化する品目）の追加やその内容
4	家庭でできるごみの減量や資源化の方法
5	回収した資源物の処理方法や処理状況
6	ごみ処理に関する問い合わせ先や相談窓口
7	フリーマーケットやバザーの開催のお知らせ
8	講演会、セミナー、施設見学会等の開催のお知らせ
9	ごみの減量や資源化に関する市の取組結果
10	市のごみの状況や問題点について
11	リサイクルプラザにおける受入対象品目や受入時間帯等
12	他自治体と比較した越谷市のごみの現状
13	特になし
14	その他（具体的に： _____)

問 11 ごみの減量や資源化など、ごみに関する知識や情報は、今後、どのような形で入手したいですか。(○は3つまで)

1	市の広報紙
2	市のパンフレットやチラシ
3	市のホームページ
4	市の出張講座
5	家族、友人、知人
6	新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなど
7	スマートフォンやタブレットなどのアプリ
8	ごみの減量化や資源化などに関する知識や情報はあまり必要ない
9	その他の手段（具体的に： _____)

問 12 ごみや資源物に関する話題（問題）で関心があるものは何ですか（〇はいくつでも）

1	食品ロス ⁽¹⁾ について
2	プラスチックごみについて
3	都市鉱山（携帯電話などに含まれる貴金属の回収）について
4	災害廃棄物（地震や台風など自然災害により発生した大量のごみ）について
5	不法投棄について
6	資源物の持ち去り（アルミ缶など自治体の集積所に出された有価物の持ち去り）について
7	レジ袋の有料化について
8	ごみ処理の有料化について
9	SDGs ⁽²⁾ （エスディーゼーズ）について
10	特にない
11	その他（具体的に： _____）

（1）食品ロスについて

「食品ロス」とは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品をいいます。

2019年10月1日からは、「食品ロスの削減の推進に関する法律」（略称 食ロス削減推進法）が施行されました。この法律は食品ロスの削減に関し、国、地方公共団体等の責務等を明らかにするとともに、基本方針の策定その他食品ロスの削減に関する施策の基本となる事項を定めること等により、食品ロスの削減を総合的に推進することを目的としています。

SDGs の中ではゴール 12「つくる責任 つかう責任」のターゲットの中で「食品廃棄を半減させる」ことが掲げられています。

（2）SDGs（エスディーゼーズ）について

SDGs（エスディーゼーズ：Sustainable Development Goals-持続可能な開発目標）とは、世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した 2030 年までに達成を目指す 17 のゴールと 169 のターゲットです。

貧困問題を始め、気候変動、生物多様性、エネルギー等、持続可能な社会をつくるために世界が一致して取り組むべきビジョンや課題が網羅されています。

ゴール 6「安全な水とトイレを世界中に」、ゴール 11「住み続けられるまちづくりを」とゴール 12「つくる責任 つかう責任」に廃棄物に関するターゲットが設定されています。

問 13 「SDGs」（エスディーゼーズ）で達成を目指す 17 のゴールと 169 のターゲットのうち、廃棄物の処理や循環型社会の構築に関連する項目をご存知でしたか。（〇は 1 つ）

1	全て知っている	2	いくつかは知っている
3	1 つも知らなかった	4	SDGs という言葉を知らなかった

問 14 「食品ロス」という言葉を知っていましたか。(○は1つ)

1 知っているし、言葉の意味も知っている
2 聞いたことはあるが、言葉の意味は知らなかった
3 知らなかった

問 15 2019年 から 10 月 が「食品ロス削減月間」となったことを知っていますか。(○は1つ)

1 知っているし、その内容も知っている
2 聞いたことはあるが、その内容は知らなかった
3 知らなかった

問 16 ふだんあなたの家庭で出すことのある食品ロスはなんですか。(○はいくつでも)

1 【食べ残し】食卓にのぼった食品で、食べ切れずに廃棄されたもの
2 【直接廃棄】傷んだり、賞味・消費期限切れ等により使用・提供されず、手つかずのまま廃棄されたもの。
3 【過剰除去】厚くむき過ぎた野菜や果物の皮など、不可食部分を除去する際に過剰に除去された可食部分。
4 ほとんど食品ロスをださない
5 わからない。

問 17 問 16 で食品を手つかずのまま捨てた主な理由は何ですか (○はいくつでも)

1 賞味 (消費) 期限が切れてしまった
2 大袋サイズなどで買って、食べきれなかった (食べ残した)
3 食べる前に傷んでしまった
4 口に合わなかった
5 特に理由はない
6 その他 (具体的に :)

問 18 食品ロスを出さないために実施していることはありますか (○はいくつでも)

1 買い物に行く前に冷蔵庫の中身を確認している
2 ばら売りや小袋サイズなどで必要な分だけ買っている
3 食べきれ分だけ料理を作っている
4 残った食材を別の料理に利用している
5 食材を適切に保存し、長持ちさせる工夫をしている
6 特に取り組んでいない
7 その他 (具体的に :)

ごみの分別・収集方法について

市では家庭から出る、ごみや資源物を下記のように区分し、10地区に分けて下記の収集頻度でステーション方式で収集しています。

ごみ・資源物の分別区分、出し方、収集頻度

区 分	主な品目	出し方	収集頻度
燃えるごみ	生ごみ、ゴム・皮革類、プラスチック製品（容器、テープ、CD）など	透明又は半透明の袋	週2回
燃えないごみ	ガラス、せともの、金属類、包丁、くぎ、小型電化製品（炊飯器、ビデオデッキ）など	黄色のカゴに入れる	隔週
古紙類	新聞紙、雑誌、段ボール、雑紙、紙パック	品目ごとにひもでしばる	隔週
ペットボトル	飲料・食用品などのペットボトル	黄色のカゴに入れる	隔週
缶	飲料・食用品などの缶	黄色のカゴに入れる	隔週
びん	飲料・食用品などのびん	青色のカゴに入れる	隔週
白色トレイ	食品（肉、魚、野菜など）が入っていた白い皿状のもののみ	黄色のカゴに入れる	隔週
古着類	洋服、スーツ、コート、タオル、シーツ、毛布、カーテン、カバンなど	透明又は半透明の袋	隔週
危険ごみ	スプレー缶、カセットボンベ、水銀体温計、水銀温度計、蛍光管、電球、電気コード、ライター、乾電池	赤色のカゴに入れる	隔週
粗大ごみ	1辺が50cm以上または、10kg以上のもの	—	予約制（毎週）

問19 現在の収集回収の頻度は適切ですか。（区分ごとに○は1つ）

区 分	現在の頻度	回 答		
燃えるごみ	週2回	1 多い	2 適切	3 少ない
燃えないごみ	2週間に1回	1 多い	2 適切	3 少ない
古紙類	2週間に1回	1 多い	2 適切	3 少ない
ペットボトル	2週間に1回	1 多い	2 適切	3 少ない
缶	2週間に1回	1 多い	2 適切	3 少ない
びん	2週間に1回	1 多い	2 適切	3 少ない
古着類	2週間に1回	1 多い	2 適切	3 少ない
白色トレイ	2週間に1回	1 多い	2 適切	3 少ない
危険ごみ	2週間に1回	1 多い	2 適切	3 少ない

問 20 ごみや資源物の分別区分についてお聞かせください。(○は1つ)

1 分別区分は多いと思う	2 分別区分は適切だと思う
3 分別区分は少ないと思う	4 どちらともいえない
5 その他(具体的に:)	

問 21 ごみや資源物の分別方法や出し方についてお聞かせください(○はいくつでも)

1 分別する品目が分かりにくい	2 資源物の出し方が分かりにくい
3 資源物の出し方が面倒である	4 ごみ集積所まで持って行くのが大変である
5 その他(具体的に:)	

問 22 ごみや資源物の分別方法、出し方や収集日など、どのような内容の情報が不足していますか。(○はいくつでも)

1 ごみや資源物の分別方法	2 ごみや資源物の出し方
3 ごみや資源物の収集日	4 ごみ集積所の設置場所
5 ごみ集積所の設置方法	
6 その他(具体的に:)	

問 23 ごみや資源物の分別方法、出し方や収集日などが分からないとき、どのようにしていますか。(○はいくつでも)

1 家庭に配布された「ごみ収集カレンダー」を見る	2 市のホームページを見る
3 家族・知人・友人に聞く	4 市役所(リサイクルプラザ)に聞く
5 集積所の看板を確認する	6 情報を得る手段がない(わからない)
6 その他(具体的に:)	

問 24 ごみや資源物の分別方法、出し方や収集日などの情報について、どのような方法で周知を図ることが望ましいと思いますか。(○はいくつでも)

1 家庭に配布された「ごみ収集カレンダー」	2 市のホームページ
3 集積所の看板	4 スマートフォンなどのアプリ
5 市の広報	6 地区ごとに説明会を開催する
7 その他(具体的に:)	

問 25 ふだんごみを出す際に集積所に関して困ったことはありますか。(○はいくつでも)

1 ごみ出しのマナーが良くない	2 集積所が汚れている
3 集積所までの距離が遠い	4 特に困ったことはない
5 その他(具体的に:)	

ごみ減量施策について

ごみの減量を進めていくにあたり、指標の一つとして「市民1人が1日出す家庭ごみの量」が使われます。国の目標として2025年度までに1人1日当たりの家庭系ごみ排出量が440g/人・日となっており、本市の1人1日当たりの家庭系ごみ排出量は528g/人・日（2017年度実績）となっています。目標との差は約80g/人・日となります。

目標を達成するためには、指定袋制やごみ処理の有料化（家庭ごみの有料化）も一つの手段です。

指定袋制・・・ごみ処理に関する手数料を徴収せず、市が指定する一定の規格（サイズ、色）を有するごみ袋（指定袋）を購入し、使用をお願いするものです。

ごみ処理の有料化・・・ごみ処理に関する手数料を上乗せし、市が指定するごみ袋を購入し、使用をお願いするものです。

問 26 指定袋制について意見をお聞かせください。（〇は一つ）

1 指定袋制の導入をすべきである	2 指定袋制はやむを得ない
3 指定袋制は導入すべきではない	4 どちらともいえない
5 その他（ ）	

問 27 ごみ処理の有料化（家庭ごみの有料化）について意見をお聞かせください。（〇は1つ）

1 ごみ処理の有料化（家庭ごみの有料化）については反対である
2 目標の達成のためには有料化を実施してもよい
3 排出量に応じた公平な費用負担が必要である
4 他のごみ減量施策を充実させるべきである
5 原則は税金でまかなうべきだが、一定以上を排出する場合には費用負担はやむを得ない
6 ごみ減量の広報による意識啓発では減量に限界があるのでやむを得ない
7 その他（具体的に： ）

問 28 家庭系ごみ排出量の目標達成のために、どのようなことに協力できますか。ごみを減量することは、地域の生活環境の保全や公衆衛生の確保に役立ち、ひいては豊かな地球環境を次世代に継承することにつながります。（〇はいくつでも）

1 ごみと資源の分別を徹底する	2 繰り返し使える商品を選ぶ
3 容器や包装が少ないものを選ぶ	4 レジ袋など、不要な包装は断る
5 生ごみの水切りを徹底する	6 生ごみの自家処理を行う（堆肥化など）
7 新聞や雑誌などの書籍を電子化にする	8 特に実践することはない
9 その他（具体的に： ）	

越谷市のプラスチック製品の処理の考え方について

国の政策では、リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用）の次に熱回収として位置付けられています。

プラスチック製品の処理は、分別してリサイクルを行ったり、熱回収を行うなど、自治体によってそれぞれ違います。

現在、越谷市では白色トレイ、ペットボトルは資源として回収しリサイクルしています。

その他のプラスチック製品は燃えるごみとして回収し、東埼玉資源環境組合で焼却処理をし、発電や熱回収を行っています。熱回収には、分別の手間が省けることや、発電により施設内の電力をまかなったり、余った電気は売電することで収入を得たり、温水による熱供給などの利点があります。市では周辺施設のゆりのき荘、越谷市民プール、農業技術センターなどへの熱供給を行っています。

問 29 プラスチック製品を燃えるごみとして回収し、焼却したエネルギーで発電や熱供給に活用していることについて考えをお聞かせください。

1 現状のままでよい	問 30 へ
2 分別してリサイクルに変更すべき	問 31 へ
3 どちらともいえない	
4 その他（具体的： _____）	

問 30 問 29 で「1. 現状のままでよい」と答えた方にお聞きします。その主な理由は何ですか。（〇はいくつでも）

1 分別の手間がかからないから
2 発電により処理経費の負担を軽減しているから
3 施設周辺の福祉施設や市民プールに熱供給しているから
4 特にない
5 その他（具体的： _____）

問 31 問 29 で「2. 分別してリサイクルに変更すべき」と答えた方にお聞きします。その主な理由は何ですか。（〇はいくつでも）

1 焼却により多量の温室効果ガスを発生するから
2 資源を消費し続けるから
3 ごみが減らない
4 国の政策（3R）の優先順位を守るべき
5 その他（具体的： _____）

集団資源回収について

集団資源回収とは、自治会や子ども会、管理組合など、一定の地域に住む住民により組織された非営利の団体が、家庭から出される大切な資源（新聞やダンボールなどの古紙類、古繊維類、空き缶、空きびんなど）を、日時や回収場所を決め、自主的に回収し、資源回収業者に引き渡してリサイクルをする活動のことをいいます。

市では資源回収実施団体として登録をした活動に対し、資源の回収量に応じて補助金を交付する集団資源回収奨励補助金交付制度を設けてこの活動を支援していますが、資源の回収量は年々減少しており、登録団体数も横ばいの状況となっています。

平成 31 年 3 月 31 日現在の登録団体数は 466 団体であり、平成 30 年度の回収量は約 6,582 トン、補助金額は約 5,259 万円となっています。

問 32 あなたのお住まいの地域では集団資源回収を実施していますか。（○は 1 つ）

1 実施している	2 実施していない	3 知らない
----------	-----------	--------

問 33 問 30 で「1. 実施している」とお答えした方にお聞きします。集団資源回収を利用していますか。（○は 1 つ）

1 利用している	2 利用していないが、今後利用する予定
3 利用しておらず、今後も利用する予定はない	4 以前利用していたが、今は利用していない

問 34 問 31 で「4. 以前利用していた」とお答えした方にお聞きします。集団資源回収の利用をやめた理由はなんですか（○は 1 つ）

1 回収日まで自宅に保管できない	2 面倒である
3 時間がない	4 回収日などの都合が合わない
5 その他（具体的に： _____）	

問 35 現在、資源物の回収は、品目別にステーション方式で回収しているものと集団回収によるものとに分かれています。今後の資源物の回収方法をどのようにすべきか考えをお聞かせください。（○は 1 つ）

1 現在のままでよい
2 集団回収を廃止し、ステーション方式での回収のみにする
3 支援制度を充実させるなど、集団回収を推進する
4 その他（具体的に： _____）

高齢化社会への対応について

市の高齢者（65歳以上）人口は85,082人であり、高齢化率（総人口に対する高齢者の割合）は24.8%となっており、4人に1人が高齢者という状態です。

高齢化率は今後も増加していくと想定されるため、高齢者だけの世帯へのごみ出しの支援、介護や在宅医療に伴う紙おむつや医療系廃棄物の増加に対する対応など高齢化社会に対応した施策を検討する必要があります。

注：人口等の数値は「平成30年度版越谷市統計年報」による平成31年1月1日現在の数値に基づいています。

問 36 市では、ごみ・資源物をごみステーションへ持ち出すことが困難でかつ65歳以上の方のみで構成される世帯や障がい者を有する方のみで構成される世帯等について、週1回、市の職員が自宅までごみ・資源物の回収に伺う「ふれあい収集制度」を実施しています。あなたは「ふれあい収集制度」を知っていましたか。（○は1つ）

1 知っているし、その内容も知っている
2 聞いたことはあるが、その内容は知らなかった
3 知らなかった

問 37 今後、高齢化が進み一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯で、ステーションへの運搬が困難な世帯が増えた場合、ごみ・資源物の収集体制をどのようにすべきかお聞かせください。（○は1つ）

1 ステーション方式のまま、ふれあい収集を継続する（現状維持）
2 ステーションを増やすなど集積所までの距離を短くして運搬の負担を軽減する
3 ステーション方式のまま、地域の住民間でサポートする
4 ステーション方式から戸別収集方式に変更する
5 その他（具体的に： _____）

さいごに

問 38 ごみの減量・資源化に関する市の取り組み等に関して、ご意見があれば自由にご記入ください。

[_____]

以上で、アンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、令和2年〇月〇日までに、郵便ポストにご投函ください。